



ヘイワード・ギャラリー

1968年に開館。荒削りなコンクリートのこのギャラリーは、ロンドン州議会議員であったアイザック・ヘイワード卿から名づけられた。テムズ川沿いのサウスバンクセンターにあるユニークで先鋭的な美術館。常設の展示はしておらず、政府の芸術評議会の協力のもと、主に近代・現代アートの展覧会を数多く開催している。世界的にも名高い現代アートの発信地であり、冒険的で影響力のあるアーティストの仕事を幅広く紹介し、その企画の斬新さが世界的に高く評価されている。

サウスバンクセンターは、ヘイワード・ギャラリーとロイヤル・フェスティバル・ホール、クイーン・エリザベス・ホールの

2つのホールから構成される芸術関連複合施設で、その規模はヨーロッパ最大級である。ホールはロンドン・フィルハーモニー管弦楽団をはじめとする幾つかの楽団の本拠地となっており、音楽、ダンス、文学などのプログラムが活発に展開されている。総合的に芸術を楽しみたいスポットである。

木々に囲まれて

会期 2020年3月4日～5月17日



展覧会では、人と木や森との関係を掘り下げている作品を集めている。

1960年代後半(近代の環境保護運動が叫ばれ始めた10年間)からの草分け的な作品から始まり、五大陸から38人の優れたアーティストの主要な作品(彫刻・絵画・インスタレーション・ビデオ・写真など)が概観できる。木の美しさを浮き出し、特徴を視覚化すると同時に、木はシンボルであり生命ある有機物として、私達に考えさせる。開館50周年記念とアース・デーが同時期というこのタイミングで、木々がどのように人の文明を形作ってきたか、そして私達の生活と想像力にどう不可欠な役割を果たし続けるかを掘り下げていく。

Artists

- ① Robert Adams (USA)
- ② Eija-Liisa Ahtila (Finland)
- ③ Yto Barrada (France)
- ④ Johanna Calle (Colombia)
- ⑤ Gillian Carnegie (England)
- ⑥ Tacita Dean (England)
- ⑦ Peter Doig (Scotland)
- ⑧ Jimmie Durham (USA)
- ⑨ Kirsten Everberg (USA)
- ⑩ Anya Gallaccio (Scotland)
- ⑪ Simryn Gill (Singapore)
- ⑫ Rodney Graham (Canada)
- ⑬ Shi Guowei (China)
- ⑭ Hugh Hayden (USA)
- ⑮ Eva Jospin (France)
- ⑯ Kazuo Kadohara (Japan)
- ⑰ William Kentridge (South Africa)
- ⑱ Toba Khedoori (Australia)
- ⑲ Luisa Lambri (Italy)
- ⑳ Myoung Ho Lee (South Korea)
- ㉑ Zoe Leonard (USA)
- ㉒ Robert Longo (USA)
- ㉓ Sally Mann (USA)
- ㉔ Steve McQueen (England)
- ㉕ Jean-Luc Mylayne (France)
- ㉖ Mariele Neudecker (Germany)
- ㉗ Virginia Overton (USA)
- ㉘ Roxy Paine (USA)
- ㉙ Giuseppe Penone (Italy)
- ㉚ Abel Rodríguez (USA)
- ㉛ Ugo Rondinone (Switzerland)
- ㉜ George Shaw (England)
- ㉝ Robert Smithson (USA)
- ㉞ Jennifer Steinkamp (USA)
- ㉟ Thomas Struth (Germany)
- ㊱ Rachel Sussman (USA)
- ㊲ Pascale Marthine Tayou
(Cameroon)
- ㊳ Jeff Wall (Canada)